

調査

上級生による下級生への進路・就職支援活動 「和歌山大学経済学部スチューデントリンク」 の現状と課題

The present states and problems of the support activities
for career options / job hunting for lowerclassmen by upperclassmen
“Student Link System in the Faculty of
Economics at Wakayama University”

本 庄 麻美子
Honjo, Mamiko

ABSTRACT

In spring, 2005, the Faculty of Economics at Wakayama University launched the “Student Link System”, the support activities for career options / job hunting for lowerclassmen by upperclassmen. It now functions as an essential part of peer education. This paper clarifies its present states and problems, and its effects.

1. はじめに

2004年4月の国立大学の法人化以後、和歌山大学では学生への進路・就職支援の取組に力を入れて行っている。法人化前までの和歌山大学は、全学組織である学生支援課就職支援室が3学部学生⁽¹⁾の進路・就職支援を行っていた。和歌山大学が文部科学大臣に提出した中期目標・中期計画の「学生への支援に関する目標」の中では、「キャリア教育を含め、就職支援を強化する」ことが掲

(1) 和歌山大学は教育学部、経済学部、システム工学部の3学部から、2007年4月より観光学部が新設され、4学部体制となった。

げられ、具体的にはキャリア教育の企画・就職対策の立案及び学生相談体制の整備、就職に関する指導教員の意識の昂揚、ゼミ生の就職に指導教員が積極的に関与する体制の確立が挙げられた。その中で、経済学部では専属の就職担当教員を採用し、2004年4月に経済学部内にキャリアデザインオフィスを設置した。同オフィスは、同教員の下で経済学部学生の進路・就職支援を行い、個々の学生の相談・カウンセリングの主な窓口となっている。2005年4月には教育学部内に教職・キャリア支援室、2006年4月にはシステム工学部内にキャリアサポート室を設置。各学部内で学生により近い支援を行う体制を確立している。

その中でも特に経済学部では、就職活動を終えた4年生企業内定者による下級生への進路・就職支援活動「スチューデントリンク」を2005年春に発足させた。これは、当時、就職活動を終えた学生が、就職活動中に会った他大学の学生の意識の高さに驚き、また、地方大学である和歌山大学生の意識の低さに危機感を持ち、「大学改革の一環として、まず、学生自ら、後輩のために、進路・就職支援を早期から行いたい」という声から始まったものである。その上級生の“意思”を毎年支援してもらった下級生が引き継ぎ、本年度で第5期生を迎えることとなった。スチューデントリンクシステムを構築してから4年が経過したが、この取組が大きな力となり、スチューデントリンクは和歌山大学経済学部にとって必要不可欠な存在となっている。3年生は、実際就職活動を経験した4年生から、進路・就職に対する考えや姿勢を学び、4年生は、下級生を支援することで、また自ら成長していくといった、相互成長が可能なピアエデュケーションとして機能している。本稿では、スチューデントリンクの今までの活動を中心に取り上げ、上級生による下級生支援の有効性をはじめ、この活動から見えてきた大学の進路・就職支援のあり方や、今後の課題について述べていきたい。

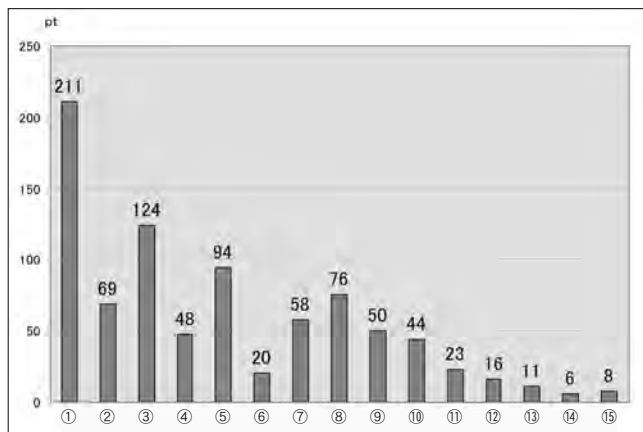
2. 和歌山大学経済学部スチューデントリンク設立の背景

2-1 和歌山大学経済学部生の特徴

和歌山大学経済学部生の特徴として挙げられるもの、それは「学歴コンプレックスを持っており、自信がない学生がどちらかというも多い」ということである。これは、学生の進学動機・理由について見てみれば、和歌山大学生固有の事情や特性が顕著である。経済学部では、キャリア教育として「キャリア・デザイン」（専門教育科目・選択：前期2単位）を3年生対象で開講しており、その中で自己分析のひとつの項目として“和歌山大学経済学部への進学動機・理由”を取り上げ考える機会を与えている。2009年度3年生の和歌山大学経済学部への進学動機・理由の結果は以下の通りである。

- ①国立大学だから
- ②自分の偏差値、レベルを考慮したから【前向きな選択】
- ③自分の偏差値、レベルを考慮したから【妥協・仕方ない選択】
- ④第一志望が残念な結果になったから
- ⑤親の希望だから【経済的理由】
- ⑥親の希望だから【上記以外の理由】
- ⑦他者（学校や塾・予備校の先生、親戚等）からの勧めがあったから
- ⑧自宅から通えるから（地元だから）
- ⑨一人暮らしがしたかったから
- ⑩興味がある分野が学べるから
- ⑪将来就きたい仕事に関連したことが学べるから
- ⑫大学の環境（立地条件、校舎、少人数制等）が良いから
- ⑬歴史が古く、会社で活躍するOB・OGの層が厚いから
- ⑭就職実績やキャリア支援がしっかりしているから
- ⑮その他

図表 1 和歌山大学経済学部に入学者の動機・理由 (N:229 複数回答可)



①⑤にあるように私立よりも国立大学を選択し、親の金銭面の負担を軽減したかったという理由が主に挙げられる。また、⑤⑧では高等教育機関が少ないという和歌山県の事情も反映されている。そして、最も目立つ入学動機・理由としては②③④からわかるように、自分との学力との関係、つまり受験時の成績によって和歌山大学経済学部を選択しているということである。特に③④の否定的評価の理由が多く、進路・就職相談の中でも「どうせ和歌山大学だから…」というキーワードが頻繁に出ることから、自己肯定ができない学生が多いといえる。

また、企業の人事担当者からよく指摘される言葉を借りれば「素直でいい子が多いが、ややおとなしい印象を受ける」ということもひとつの特徴である。

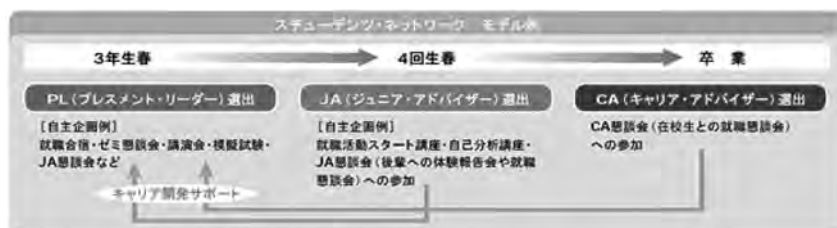
以上のような学生気質は地方国立大学特有のものであり、私立大学に比べて学生数が少なく、他大学との交流機会も少ないため、刺激があまりないということのも一因であると考えられる。自己肯定ができる学生を少しでも増やすためにも、学生の学内ネットワークを強化し情報の共有化を図るとともに、切磋琢磨・刺激し合える機会を増やすスチューデントリンクというピアエデュケーションの機能が必要であった。

2-2 スチューデントリンクのモデルとなったもの

和歌山大学経済学部キャリアデザインオフィスでは立ち上げ当初、立命館大学キャリアオフィスが全国でも先駆けて取り組んでいる「スチューデント・ネットワーク」をモデルとした取組、少人数であり学部単位だからこそできる相互に支援しあいながら学生が成長できる取組ができないかと考えていた。それは、当時、担当教員1名で学部生・大学院生含め約400名の学生への進路・就職支援を実施することにも限界があり、確実にマンパワー不足であることが目に見えていたためでもあるが、本来、進路・就職に関しては学生の自発的な行動が必要不可欠であり、前述の通り、それを学生同士で切磋琢磨することができれば、必然的に学生のポテンシャルも高くなるのではないかという期待があった。

立命館大学キャリアオフィスの「スチューデント・ネットワーク」とは、就職というものを1つの軸として、就職活動中の学生、内定後の学生、若手OB、この三者が連携して行われる相互支援のことであり、1995年という早い段階から学生相互のキャリア支援として行われている。各ゼミから3回生1名をプレズメンントリーダー（PL）として選出し、就職活動支援のリーダー的役割として、就職準備合宿、OBとの交流会、勉強会などの自主企画を担当する。また、就職活動を終えた学生の中からジュニアアドバイザー（JA）を選出し、下級生の支援にあたる。そして卒業後の若手OBには、社会人の視点から仕事と人生についてアドバイスするキャリアアドバイザー（CA）へ登録してもらい、現役学生へのアドバイス、懇談会への参加等の支援を行っている。

図表2 立命館大学スチューデント・ネットワークモデル例



資料出所：立命館大学 RS web

2-3 スチューデントリンクの設立

2004年春、和歌山大学経済学部でも立命館大学スチューデント・ネットワークと同様、各ゼミで代表1名をプレズメントリーダー(PL)として選出し、活動をスタートさせたいと考えていた。それに伴い、各教員にその主旨を説明し、学生選出の協力をお願いした。しかし、選出された学生は自発的に参加するという姿勢ではなく、仕方なくリーダーになったという意識が根底にあったこともあり、上手く機能せず組織化する前に一度失敗に終わった。

しかし2004年冬、就職活動をスタートさせた学生から「和歌山大学は進路・就職支援が充分でない」「和歌山大学の学生の意識は低すぎる」という声が多く挙がってきた。就職活動で他大学の学生と交流する機会が増え、意識の高い学生との出会いにより刺激を受ける中で、特に私立大学の進路・就職支援が手厚く、自分の大学との進路・就職支援の格差を実感することが多かったようだ。一部の学生から「和歌山大学はこのままではいけない」「大学改革の一環として進路・就職支援を学生としてやっていきたい」という自主的な声から、学生の学生による学生のための進路・就職支援団体スチューデントリンクが2005年春に発足。活動を開始することになった。

3. スチューデントリンクシステムの構築

3-1 スチューデントリンクのミッション

スチューデントリンクは、和歌山大学経済学部キャリアデザインオフィスの公認団体として機能することとし、キャリアデザインオフィスと同じベクトルを持って活動することとしている。キャリアデザインオフィスのミッションでもある①就職率だけではなく、学生各々の「進路決定の満足度」を高めることに重点を置く②ジリツ(自立・自律)ができるように早期の気付きを促せる存在になる③学生の間中層(2:6:2の6)の意識のボトムアップを目指すという3点が基本にある。その上で、スチューデントリンクとは、「経済学部4年生が、和歌山大学経済学部同窓会柑芦会(以下、「柑芦会」と略)と連携を取りながら、

3年生に早期から主体的に就職活動をする意識を持ってもらい、また学生という立場からより近い距離で就職活動をサポートする進路・就職支援団体」であり、大学の予算を使って活動をしているため、サークルやクラブというカテゴリーからは外れるということと、あくまで経済学部キャリアデザインオフィスの進路・就職支援プロジェクトメンバーの一員であるという認識を持つという定義付けをしている。また、スチューデントリンクは柑芦会と学生との橋渡しをする大きな役目を担っている。

毎年「進路が決定したので、スチューデントリンクの活動に参加してみたい」「先輩にお世話になったので、スチューデントリンクメンバーとなり、逆に後輩への支援をしていきたい」と必ず一定数、学生自ら申し出てくれるため、公募という形の学生募集はあえて実施していない。活動はすべてボランティアであり、活動内容も毎年集まるメンバーのペースでできる範囲内で下級生のために進路・就職支援を行ってほしいと伝えている。昨年は昨年の活動、今年は今年の活動、昨年実績には拘らず、活動内容を一から決めてもらうことにしている。そして、メンバー各々の自らの発言が、下級生の人生を左右するかもしれないという大きな責任が伴うため、それだけの覚悟、強い責任感と使命感を持ち、一度決めたら最後まで継続して活動に積極的に関わることをお願いしている。

3-2 スチューデントリンクメンバーとの関わり方と基本姿勢

スチューデントリンクメンバーには、キャリアデザインオフィスとして4つの約束事を徹底させている。

① 自己満足な活動・企画の立案にならないように注意する。

メンバーの「〇〇（企画）をやりたい」という気持ちや心意気だけでなく、必ず、その企画が3年生にとってどんな意味のあるものなのか、提供する側としてどんな意図があって、どういう効果を出していくのかといったことまで、キャリアデザインオフィスの学生プロジェクトメンバーの一員として深

く物事を考えてもらいたいと考えるからである。これらの議論をすることで、メンバー各々が様々な角度から物事を客観的に見る力が養うことが可能となる。

- ② 担当教員やメンバー間の報告・連絡・相談の徹底。聞いていない、知らないということのないように、議事録は毎回作成し、全員が共有できるようにする。

「報告・連絡・相談の徹底」に関しては、社会人の基本であり、どの組織でも実践されているものである。情報の共有化をすることで、スピードをもって物事を進めることが可能である。

- ③ 経済学部公認団体でもあるので、勉学及び大学行事を優先する。

「勉学及び大学行事を優先する」については、スチューデントリンクの活動を優先してしまう学生がいれば本末転倒となるため、注意している。

- ④ 時間厳守。会議やイベントに参加できない場合、遅刻する場合は事前にメンバーに連絡する。

「時間厳守」。これがなかなか守れない学生が多い。大学まで自宅から片道2時間かけて通学している学生が時間を守り、逆に大学近くで下宿している学生が時間にルーズであることが往々にしてあり、これが徹底されないと不満が溜まり、モチベーションの格差が必ず出てくることになるためである。

以上の事柄がしっかりと徹底されていれば、キャリアデザインオフィスとして助言はするが、基本的に具体的な企画・運営に関して干渉せずしっかりと見守ることにしている。キャリアデザインオフィスの役割は、キャリアデザインオフィスの基本ラインを守って活動ができているかどうかのチェックと、メンバー各々のモチベーションが低くなったときのフォロー、そして、メンバーへは「プレ社会人」として接しその指導・助言をすることである。

4. 1～4期までのスチューデントリンクの活動とプログラム内容

以下では、過去4年間の活動の特徴と実施プログラムを紹介する。

4-1 2005年度スチューデントリンク1期生（SPY）の主な活動内容

1期生は、ゼロから組織を立ち上げたため、模索しながらの活動だったといえる。しかし、活発な進路・就職支援活動が評価され、大学に大きく貢献をしたということで2005年度の学長表彰の対象となった。また、柑芦会大阪支部との連携強化のため、意見交換を積極的に行い、協力体制を整えてもらえるように依頼できたことも大きな成果となった。卒業後も1期生メンバーは柑芦会青年部として、若手OB・OG組織オレンジハウス（以下、「オレンジハウス」と略）の立ち上げにも関与し、現在も活躍している。オレンジハウスに関しては後述する。

- ・主要メンバー：9名
- ・アドバイザー（主要メンバーの補助的な立場）：20名
- ・活動：週2回
- ・組織：セミナーカンパニー（イベント担当）とメディアカンパニー（広報担当）の2体制で組織化

<提供したプログラム>全10回

※参加人数を把握していない部分は掲載せず

- キックオフイベント 就職活動が必ず楽しくなるセミナー 約100名参加
(6月27日(月) 16:30～18:00 @ G103)
- SPY 座談会
(6月29日(水)・7月1日(金) 各16:30～18:00
@キャリアデザインオフィス)
- 就活パーク2006 業界セミナー 約300名参加
(11月9日(木) 15:00～19:00 @経済学部棟)

＜参加企業＞サントリー・大和証券グループ本社・日本 IBM・NTT 西日本・
富士通・ベネッセコーポレーション・帝国データバンク・
三井生命保険・みずほフィナンシャルグループ

○ The バーチャル選考 約 40 名参加

(12月5日(月)・7日(水) 各 16:30～18:00 @ E201)

○ SPY 塾～自己分析講座～

(12月12日(月) 16:30～19:30 @ キャリアデザインオフィス)

○ SPY 塾～グループディスカッション講座～

(12月16日(金) 16:30～19:30 @ キャリアデザインオフィス)

○ SPY 塾～エントリーシート講座～

(12月19日(月) 16:30～19:30 @ キャリアデザインオフィス)

○ SPY 塾～面接対策編～

(12月22日(木) 16:30～19:30 @ キャリアデザインオフィス)

○ 就職支援のための若手 OB・学生懇談会 OB・OG 10 名・学生 50 名参加

(1月28日(土) 13:30～16:30 @ かんぼヘルスプラザ大阪)

○ SPYCY CAFÉ ～内定者座談会～

(2月6日(月)・7日(火) 16:30～17:30 @ キャリアデザインオフィス)

＜その他＞

○ 就活情報誌 “SPY REPORT” を 6・7・10・11・1 月の計 5 回× 500 部、
計 2,500 部発行

4-2 2006 年度スチューデントリンク 2 期生 (ASSIST) の主な活動内容

2 期生は、先輩が築いてきたものを自分達が残していかなければいけないという使命感から活動を継続させたといえる。新たな試みとして、次期 3 期生メンバー 3 名と共に年度末の 3 月、東京大学キャリアセンターの視察や早稲田大学キャリアセンター及び法政大学キャリアセンターの学生サポーターとの意見交換、柑芦会東京支部への活動報告も行った。

- ・主要メンバー：10名
- ・プラスメンバー（主要メンバーの補助的な立場）：15名
- ・活動：週2回
- ・組織：セミナーカンパニー（イベント担当）とメディアカンパニー（広報担当）の2体制で組織化

<提供したプログラム>全10回

※参加人数を把握していない部分は掲載せず

○座談会

（7月13日（木）・14日（金） 専門教育科目「キャリア・デザイン」講義@ E201）

○夜間プロジェクト [夜間主コース生対象] 20名参加

（10月10日（火）・11日（水）・12日（木）・13日（金）・16日（月）

各16:30～17:20 @ E201）

○就活パーク2006 業界セミナー 約300名参加

（11月16日（木）14:00～17:30 @経済学部棟）

<参加企業> NHK・NTT西日本・関西電力・大和証券グループ本社・

高島屋・ベネッセコーポレーション・

みずほフィナンシャルグループ・三菱電機・リクルート

○ASSIST 塾 自己分析講座 30名参加

（12月5日（火）16:30～18:00 @キャリアデザインオフィス）

○ASSIST 塾 エントリーシート講座 30名参加

（12月6日（水）16:30～18:00 @キャリアデザインオフィス）

○ASSIST 塾 グループディスカッション講座 30名参加

（12月11日（月）16:30～18:00 @ E201）

○ASSIST 塾 面接講座 20名参加

（12月13日（水）16:30～18:00 @キャリアデザインオフィス）

○バーチャル選考（グループディスカッション+模擬面接）30名参加

(12月15日(金) 16:30～18:00 @キャリアデザインオフィス)

○ASSISTy Café (内定者座談会) 内定者16名・学生約100名参加

(1月23日(火) @キャリアデザインオフィス・24日(水) @E201
各16:30～18:00)

○合同OB訪問～先輩! 社会って何デスカ? OB・OG9名・学生30名参加

(1月27日(土) 13:30～17:00 @大阪市立難波市民学習センター)

<その他>

○就活情報誌“ASSIST REPORT”を7・9・2月の計3回×400部、
計1,200部発行

4-3 2007年度スチューデントリンク3期生(Az)の主な活動内容

3期生の活動は、経済学部内だけに留まらず、教育学部及びシステム工学部の学生にも支援の裾野を広げたいという思いがあり、学内の就職担当者会議でも機会がある度に、スチューデントリンク活動のプレゼンテーション・意見交換を積極的に行った。学内の啓蒙活動、認知度アップに力を注ぎ、以前より他学部学生の利用が増えたといえる。

また、柑芦会大阪支部へは7月に意見交換会、東海支部へは年度末の3月に活動報告会を実施。名古屋大学キャリアセンターの学生サポーターとの意見交換、南山大学キャリアセンターの視察も行った。

- ・主要メンバー：12名
- ・プラスメンバー（主要メンバーの補助的な立場）：10名
- ・活動：週1回
- ・組織：代表・副代表・会計・イベント班・就活@キャンパス班・広報班と
細分化して役割を明確にした

<提供したプログラム>全9回

○座談会

(7月12日(木)・13日(金) 専門教育科目「キャリア・デザイン」講義@ E201)

○リクナビフェスタ夏！参加<3回生引率> 14名参加

(9月11日(火) @大阪城ホール)

○自己分析講座事前講習会 12名参加

(10月10日(水)・12日(金) 各12:30~12:45 @ E104)

○自己分析講座 39名参加

(10月17日(水)・19日(金) 各PM/随時@キャリアデザインオフィス)

○他己分析講座 50名参加

(10月24日(水) 15:00~16:40 / 29日(月) 16:00~18:00 @ E201)

○業界別セミナー“就活@キャンパス”約350名参加

(11月22日(木) 13:30~17:00 @ E101・301・302)

<参加企業> 江崎グリコ・エン・ジャパン・関西電力・積水ハウス・大丸・
野村証券・ベネッセコーポレーション・松下電器産業・
みずほフィナンシャルグループ

○内定者座談会 70名参加

(12月5日(水) 16:30~18:00 @ E103・104 / 6日(木) 16:30~
18:00 @ G107・108)

○金融OB座談会 18名参加

(12月15日(土) 16:30~18:00 @大学生協カフェテリア)

○グループディスカッション講座 28名参加

(12月19日(水) 16:30~18:00 @ E201)

○就職支援のためのOB・OGと学生の懇談会 OB・OG15名・学生57名参加

(1月30日(土) 13:30~16:30 @なんばパークス会議室)

<その他>

○就活情報誌“Az REPORT”を7・9月の計2回×500部、計1,000部発行

4-4 2008年度スチューデントリンク4期生(B-cue)の主な活動内容

4期生は①学生に就職活動を始める「きっかけ」を与える②縦(柑芦会・歴代スチューデントリンク)と横(全学部全学生)との関係を深めるという2点をコンセプトとして掲げ、活動を行った。新たな試みとして、歴代スチューデントリンク交流会を開催し、今後の縦の繋がりについて議論を行った。その中でOB・OG19名、学生8名の計27名で活発な意見交換が出来た。これが機会となり、柑芦会大阪支部及び東京支部の「オレンジハウス」の設立に繋がった。また、学内のイベントは低年次向けの企画を実現させた。

柑芦会大阪支部へは7・12月に意見交換と活動報告会、東京支部へ年度末の3月に活動報告会を行った。また、立命館大学スチューデント・ネットワークの学生交流会、東京大学ドリームネットメンバーとの意見交換、立教大学キャリアセンターの視察も行った。学内の就職担当者会議だけでなく、学長・担当理事へも積極的にスチューデントリンク活動のプレゼンテーション・意見交換を行い、学内の認知度アップと来期以降の協力を仰いだ。

- ・主要メンバー：11名
- ・プラスメンバー(主要メンバーの補助的な立場)：10名
- ・活動：週1回
- ・組織：代表・副代表・イベント班・就活@キャンパス班・広報班

<提供したプログラム> 全9回

○座談会

(7月10日(木)・15日(火) 専門教育科目「キャリア・デザイン」講義@E201)

○就活カフェ(3回生対象) 41名参加

(7月15日(火)・18日(金) 16:30～18:30 @大学生協カフェテリア)

○リクナビフェスタ夏!参加<3回生引率> 27名参加

(9月2日(火) @大阪城ホール)

○自己分析講座 54名参加

(10月23日(木)3限@E201 / 27日(月)2限@E103)

○グループディスカッション講座 53名参加

(11月12日(水)16:40～18:10 / 17日(月)15:00～16:30 @ E201)

○業界別セミナー“就活@キャンパス2008” 326名参加

(11月27日(木)13:30～17:00 @ E101・301・302)

<参加企業>江崎グリコ・川崎重工・関西電力・シャープ・積水ハウス・高島屋・
大和証券グループ本社・みずほフィナンシャルグループ・JTB

○内定者座談会 57名参加

(12月18日(木)13:10～15:40 / 19日(金)16:40～19:10

@ E201～210)

○就活カフェ(1・2回生対象) 18名参加

(1月14日(土)16:30～18:00 @大学生協カフェテリア)

○就職支援のためのOB・OGと学生の懇談会 OB・OG18名・学生72名参加

(1月24日(土)13:30～16:30 @なんばパークス会議室)

<その他>

○就活情報誌“B-cue REPORT”を7・9月の計2回×500部、計1,000部発行

5. スチューデントリンクの活動による様々な効果

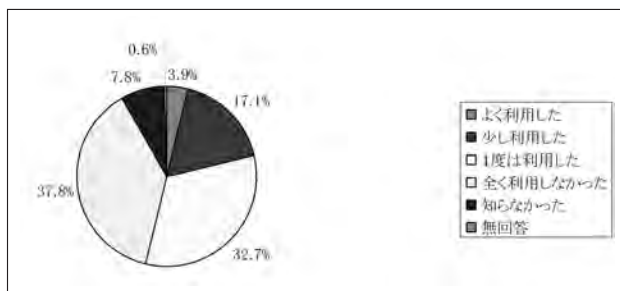
5-1 就職活動する3年生からの評価

学生の就職活動状況を把握するため、経済学部では毎年1月末の卒業論文提出時に4年生対象に就職活動アンケートを行っている。学生のスチューデントリンクの利用状況について、2008年度に実施したアンケート(有効回答数333)を元に検証してみたい。

図表3は「スチューデントリンクが提供するイベントや相談会への利用度について」という問いに対する回答結果である。就職活動をした、しないに関わらず、53.7%の半数以上の学生がスチューデントリンクの活動に関わったことがあると回答している。また、存在自体を知らなかったという学生は7.8%と

比較的低く、幅広い学生に周知されており知名度は高かったといえる。

図表3 スチューデントリンクが提供するイベントや相談会の利用状況 (N:333)



スチューデントリンクの学生評価は、アンケートの中で自由記述の要望・意見によると以下の通りであった。2008年度アンケートには「スチューデントリンクのイベント企画が良かった」「就活情報誌がとても役立った」「先輩が丁寧な対応をしてくれて、教えてくれたことは非常に役立った」「先輩が親身に相談によってくれたので就職活動の手助けになった」「スチューデントリンクの活動は良い刺激になったので、今後も頑張ってほしい」といった高い評価が多かった。また、「キャリアデザインオフィスは利用しなかったが、スチューデントリンクのイベントには毎回参加して、とても参考になった」という学生もおり、大学の進路・就職支援では行き届かない面を補うといった役割をスチューデントリンクが果たしてくれていたことがわかる。一方で、就職活動中は大阪方面に向かう学生が多く和歌山まで来る時間がないという現状もあり「就職活動中は忙しすぎて大学に来る時間がなかったので、利用したかったが利用できなかった」という声も多くあった。しかし、「スチューデントリンクメンバーの活動は自己満足が強いのでは」といった厳しい意見もあり、反省しなければならない点もある。

また、今期、活動をスタートさせた5期生を対象に「ボランティア活動にも関わらず、何故、スチューデントリンクメンバーとなって活動に参加したいと思ったのか」と動機を聞くアンケートを実施したところ、「この活動を通じて

成長できると思ったから」「自分の経験をアウトプットすれば少しでも後輩へ役立てると思ったから」に次いで、「先輩にお世話になったので、スチューデントリンクメンバーとなり、その恩恵を逆に返すためにも後輩への支援をしていきたい」という理由が多かった。

以上から、総じて肯定的で「役立った」と実感している下級生が多いことがわかる。

5-2 スチューデントリンクメンバー（支援する側）への効果

毎年、卒業間際に柑芦会の各支部等で活動報告会を実施する中で、発表の結びとして、スチューデントリンクの活動を終えてのメンバーの感想を聞く機会があり、その感想・意見の中で共通しているものがある。それは以下の3点である。

① 自分自身のことを改めて考え、再確認し、大きな成長ができた

「自分自身の就職活動を改めて振り返ることができ、自分の目標も再確認できた。」「本気で辞めてやろうかと思ったことも、大変なこともたくさんあった。モチベーションが下がって涙したこともあったが、様々な経験を通して自分自身が大きく成長できた。」「この活動を通して、“社会に還元できるような人になる”という社会人になってからの目標ができた。」「企業への対応やビジネスマナーが身に付いた。社会に出る心構えが身に付いたことが成長に繋がった。」等、自己成長を実感する感想が多くを占める。以上から、この活動は社会人導入教育の一環にもなっているといえる。

② 仲間と共にやり遂げたという達成感

「この活動を通して、数多くの同級生や後輩達と出会え、これは人生における大きな財産になった。」「辛い事や大変な事がたくさんあったけれど、仲間と共に乗り越えた経験が一生の財産になった。」等、この活動を通して、同期の仲間と真剣に意見交換し、メンバーが納得するまで何度も話し合うことも時には必要であり、違う意見に戸惑ったり、刺激をもらったりする経験を重

ねることで、信頼関係を構築でき、大きな結束力に繋がっていくように感じる。この活動が縁でできた仲間は生涯のかけがえのない友になるだろう。

③ 下級生のために少しでも役立てた

「後輩のために少しでも役立てたかなと思う。本当にこの活動に参加して良かった。」「後輩に感謝され嬉しかった」等、この活動の中で下級生から信頼されたり感謝されたりする場面が多くあり、自己肯定ができる機会が多かったのではないかと考えられる。

5-3 和歌山大学経済学部同窓会柑芦会への効果

柑芦会は大学にとって人的資源としての大きな財産であり、進路・就職支援のバックアップしてもらえる偉大な存在である。スチューデントリンクの活動を開始してから、柑芦会との関わりを密に持ち、WIN-WINの関係が築けなかと学生と共に模索していた。そこで、柑芦会の行事に積極的に参加しスチューデントリンクの存在を知ってもらうこと⁽²⁾、年1回は共催で進路・就職イベントを行うこと⁽³⁾、そして、柑芦会各支部へ活動報告をさせてもらうことを徹底した⁽⁴⁾。

その中で2008年12月、柑芦会大阪支部が「人生と仕事の幅を広げる」をモットーに主催している人生塾のスペシャル版としてスチューデントリンク4期生と共に活動報告と意見交換をする機会をいただき、参加した22名の先輩方にスチューデントリンクの主旨と活動内容に対し理解を深めていただいた。学生からの柑芦会側への主な要望として、①柑芦会大阪支部の大阪市中央区谷町4丁目にあるオフィスの活用②OB・OG訪問の斡旋③学生からの相談（キャリアカウンセリング・模擬面接・履歴書の添削等）対応が挙げられた。その後の意見交換の中で、要望を実現できるように柑芦会として具体的に検討するとの

(2) 毎年7月に「柑芦会大阪支部総会」という200名参加規模の同窓会があり、そこでスチューデントリンクのメンバー紹介と今年の活動方針の発表の場を設けてもらっている。

(3) 毎年1月に若手OB・OG懇談会を開催。

(4) 柑芦会大阪支部へは年1回、柑芦会東京支部・東海支部に関しては隔年1回実施している。

言葉をいただき、①に関しては、就職活動中の学生の休憩場所として平日開放してもらえることになり、今までは大学生協内でしか購入できなかった大学指定の履歴書の委託販売サービスも行っている。また、③に関しても、2009年2月～4月の毎週金曜日13:00～20:00、大阪支部オフィスにキャリアカウンセラー（卒業生ボランティア）が駐在し、学生の進路・就職相談を試験的に実施。延べ20名の学生相談に対応いただいた。これは継続して、次年度も実施予定である。このように、柑芦会として、今まで以上に大学の進路・就職支援に積極的に関わっていただけるようになった。

また、4期生は常々、1～3期の縦の繋がりを活動に直結させ、その人脈の有効活用ができないのかと議論を行っていた。同じ思いで活動していた先輩に相談すればきっと力になってくれるはずだと確信し、2008年12月、歴代スチューデントリンク交流会を開催した。スチューデントリンク設立から新たな試みであった。卒業生31名中19名と年末の忙しい中、遠方から駆けつけてくれた先輩も多く、現役生8名含む計27名で活発な意見交換を行った。その中で、現役時代に柑芦会との橋渡し役だった卒業生が、柑芦会会員となった今、どんな関わり方ができているかという質問に「全く関わっていない」と回答、柑芦会費の納入もゼロであるということが浮き彫りになった。改めて、卒業生、現役生共にスチューデントリンクメンバーとして柑芦会との関わりを考えるいい機会となった。そこから1期生の有志が柑芦会青年部組織「オレンジハウス」を2009年3月に結成。大阪支部では2009年7月、東京支部では2009年8月にオープニングイベントを開催し、活動をスタートさせた。柑芦会は、若手会員・女性会員の参加が見込めないという大きな課題に直面していたこともあり、これが課題解決の突破口として大きな期待を寄せている。

以上のように、スチューデントリンクの活動は柑芦会へも相乗効果をもたらせているといえる。

6. スチューデントリンクの今後と課題

2009年度スチューデントリンク5期生の活動がスタートした。今年度の新しい動きとしては、3年生自らでお互い切磋琢磨できる場を創りたいとの声が挙がり、スチューデントリンク [CHILD] という組織を2009年7月に立ち上げ、メンバーを募り22名で自主的な勉強会を企画・運営することになった。4年生であるスチューデントリンクメンバーもこれにオブザーバーとして関わっていくことになっている。また、キャリアデザインオフィスとしては2009年秋に「ワダイのひとプロジェクト」と題し、OB・OGの仕事取材ファイルをWEBサイトにオープンさせる予定である。これは、OB・OG訪問をした学生に取材報告を提出してもらい、それをWEB上で情報共有しようという試みである。軌道に乗れば、低年次キャリア教育に繋げていきたいと考えている。

このスチューデントリンクの活動はまだまだ発展途上といえる。特に学生の中間層(2:6:2の6)の意識のボトムアップに注力しているが、まだまだ、意識の高い上層部の進路・就職支援に偏っているのではないかと感じる。何をもって、中間層の意識のボトムアップに成功したかというのは難しい面もあるが、今後の重点課題である。また、スチューデントリンクの活動は企業への就職支援が中心であり、特に公務員就職に関する支援、また、大学院生を対象とした支援はできていないのが現状である。今後は、学生と共に支援内容を検討していきたい。

7. おわりに

この取組に先立ち、立命館大学の「スチューデント・ネットワーク」に関して、前キャリアセンター課長(現東京オフィス副所長)の村上吉胤氏、現キャリアオフィス課長の折田章宏氏には丁寧な解説と適切な助言を賜り、学生同士の交流も実現していただいた。また、立教大学の「立教キャリア塾」に関して、キャリアセンターの佐々木暢也氏には、丁寧な解説を賜わり、本稿を書きき

かけを与えていただいた。衷心より感謝申し上げたい。

そして、この取組は平成16年度ならびに平成17年度の「和歌山大学オンリー・ワン創成プロジェクト経費」の支給を受け、構築することができた。最後に記して和歌山大学ならびに関係諸氏に謝意を表したい。

参考文献

- 本庄麻美子 [2007], 「国立大学法人におけるキャリア教育, 進路・就職支援の推進と課題 ―和歌山大学経済学部の最近の取組を中心に―」, 和歌山大学経済学部『経済理論』第339号
- 佐藤史人・本庄麻美子 [2007], 「和歌山大学におけるキャリア教育に関する研究 ―全学対象「進路と職業」の実施に基づいて―」, 和歌山大学教育学部『和歌山大学教育学部紀要―教育科学―』第57集
- 佐藤史人・小林由佳 [2008], 「和歌山大学生における職業興味の特徴に関する研究」, 和歌山大学教育学部『和歌山大学教育学部紀要―教育科学―』第59集
- 佐々木暢也 [2006], 「内定学生による後輩の就職支援活動「立教キャリア塾」の現状報告と課題」, 日本キャリアデザイン学会『キャリアデザイン研究』Vol.2
- 立命館大学キャリアオフィス (http://www.ritsumei.jp/career/index_j.html)
- 立命館大学 RS Web (<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/koho/rs/060515/005a.htm>)
- 和歌山大学経済学部キャリアデザインオフィス (<http://www.eco.wakayama-u.ac.jp/~cdo/>)
- 和歌山大学経済学部同窓会柑芦会 (<http://www.kourokai.com/>)